

I 利用者のために

1 調査の概要

(1) 調査の目的

徳島県人口移動調査は、国勢調査の実施から次の国勢調査の実施までの間の人口及び世帯数を推計し、併せて、人口及びその移動状況を年齢別に集計することにより、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査の概要

徳島県統計調査条例（昭和25年徳島県条例40号）

徳島県人口移動調査要綱

(3) 調査の期間

毎月1日から末日までの期間

(4) 調査の対象

住民基本台帳法及び外国人登録法の規定に基づき移動のあった者、並びに移動のあった世帯（同一市町村の転居を除く）

(5) 調査事項

- ア 出生・死亡
- イ 転入者（従前の住所地別）
- ウ 転出者（転出先別）
- エ 世帯の移動
- オ 年齢別転入・転出・死亡者

2 調査結果の表章について

人口と世帯数は平成15年1月1日現在における数値で、移動状況は平成14年1月から12月までの1年間の数値をまとめたものである。

なお、この数値は国勢調査結果を基礎数値とし、住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく移動状況を加減して推計したものである。

3 転入・転出者数について

$$\begin{array}{l} \text{転入者総数} \left\{ \begin{array}{l} \text{転入者数} \\ \text{職権記載} \end{array} \right. \qquad \text{転出者総数} \left\{ \begin{array}{l} \text{転出者数} \\ \text{職権消除} \end{array} \right. \end{array}$$

転入者総数・転出者総数には、それぞれ職権記載（従前の住所あり、従前の住所なし、帰化・国籍取得、その他）、職権消除（国籍喪失、その他）が含まれている。

このため、転入者総数と転入者数（県外及び県内他市町村から）、転出者総数と転出者数（県外及び県内他市町村へ）は一致しない。

また、各市町村での転出届と転入届の受理日に時間的なずれがあるため、年間の県内市町村間の転入者数と転出者数は一致しない。

4 補正值について

国勢調査結果を基礎数値として、毎月の移動状況を各歳別に集計する課程で誤差が生じ、人口がマイナスになる場合があるので、補正值を設けて表示を「-」としている。

(1) 0歳の人数+・・・+100歳の人数+年齢不詳=総数+補正值

(2) [例] 90歳に補正があった場合

県計の90歳の人数+補正值≠徳島市の90歳の人数+鳴門市の90歳の人数+・・・+西祖谷山村の90歳の人数

(3) 補正があった場合、各年齢の人数の合計は、3区分人口と合わない。

5 用語の説明

(1) 出生児・・・戸籍法の規定に基づく出生届により、住民票の記載をした者。

外国人登録法の規定に基づく新規登録申請のうち、出生により登録原票に登録した者。

(2) 死亡者・・・戸籍法の規定に基づく死亡届または失踪宣告届により住民票の削除をした者。外国人登録法の規定に基づき、死亡によって登録原票を閉鎖した者。

(3) 転入者・・・住民基本台帳法の規定に基づく転入届により、住民票の記載をした者。

外国人登録法の規定に基づき居住地変更登録を行った、県内地市町村及び他都道府県からの転入者。

外国人登録法の規定に基づく新規登録申請のうち、入国により登録原票に登録した者。

(4) 転出者・・・住民基本台帳法の規定に基づく転出届により、住民票の削除をした者。

外国人登録法の規定に基づき新居住地の市町村長へ登録原票を送付した者。
外国人登録法の規定に基づく出国によって登録証明書を返納し、登録原票を閉鎖した者。

(5) その他の用語・比率等

$$\text{ア 人口増加率(\%)} = \frac{\text{平成15年1月1日現在人口} - \text{平成14年1月1日現在人口}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{イ 出生率(\%)} = \frac{\text{平成14年1月} \sim \text{12月間の出生児数}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 1,000$$

$$\text{ウ 死亡率(\%)} = \frac{\text{平成14年1月} \sim \text{12月間の死亡者数}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 1,000$$

$$\text{エ 自然増加率(\%)} = \frac{\text{平成14年間の出生児数} - \text{平成14年間の死亡者数}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{オ 転入率(\%)} = \frac{\text{平成14年1月} \sim \text{12月間の転入者数}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{カ 転出率(\%)} = \frac{\text{平成14年1月} \sim \text{12月間の転出者数}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{キ 社会増加率(\%)} = \frac{\text{平成14年間の転入者数} - \text{平成14年間の転出者数}}{\text{平成14年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{ク 従属人口指数(\%)} = \frac{0 \sim 14 \text{歳人口} + 65 \text{歳以上人口}}{15 \sim 64 \text{歳人口}} \times 100$$

$$\text{ケ 年少人口指数(\%)} = \frac{0 \sim 14 \text{歳人口}}{15 \sim 64 \text{歳人口}} \times 100$$

$$\text{コ 老年人口指数(\%)} = \frac{65 \text{歳以上人口}}{15 \sim 64 \text{歳人口}} \times 100$$

$$\text{サ 老年化指数(\%)} = \frac{65 \text{歳以上人口}}{0 \sim 14 \text{歳人口}} \times 100$$

$$\text{シ 平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口}}{\text{総人口}} + 0.5$$

(6) 統計表中の符号

- ア 「0.0」, 「0.00」 表章単位に満たないもの。
- イ 「-」 零または該当数値のないもの。
- ウ 「***」 不詳（数字が得られないもの）
- エ 「△」 減少

(7) 都道府県を次のブロックに分ける

- ・ 北海道ブロック 北海道
- ・ 東北ブロック 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島
- ・ 関東ブロック 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川
- ・ 中部ブロック 新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知
- ・ 近畿ブロック 三重, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山
- ・ 中国ブロック 鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口
- ・ 四国ブロック 香川, 愛媛, 高知, (徳島)
- ・ 九州ブロック 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄

Ⅱ 調査結果の概要

1 総人口

(1) 人口の推移

徳島県の平成15年1月1日現在推計人口は、820,935人（男389,851人、女431,084人）となっている。（表1）

本県の人口は、昭和25年国勢調査（10月1日現在）において878,511人となり、国勢調査実施以来最大の人口を記録した。

昭和30年代に入ると人口は減少し始めたが、昭和48年を境に増加し始め、昭和64年から再び減少に転じた。平成8年に一旦増加に転じたが、平成12年以降は減少傾向にある。

表 1 人口の推移

（単位：人、％）

区 分	総 人 口	対前年増加率	男	女
昭和63	836,132	0.04	399,728	436,404
64	835,916	△0.03	399,395	436,521
平成2	834,716	△0.14	398,469	436,247
3	831,758	△0.35	395,933	435,825
4	831,002	△0.09	394,956	436,046
5	830,195	△0.10	394,281	435,914
6	830,079	△0.14	394,119	435,960
7	829,772	△0.04	393,930	435,842
8	832,741	0.36	395,839	436,902
9	833,009	0.03	395,904	437,105
10	832,269	△0.09	395,374	436,895
11	832,418	0.02	395,249	437,169
12	830,575	△0.22	394,274	436,301
13	824,264	△0.76	391,691	432,573
14	822,888	△0.17	390,857	432,031
15	820,935	△0.24	389,851	431,084

注) 各年1月1日現在である。

(2) 人口の分布

総人口に占める市部人口をみると、431,421人で総人口の52.6%、なかでも徳島市は、全体の32.6%を占めている。総人口に占める市部人口の割合及び徳島市の占める割合は、それぞれ人口移動調査を開始した昭和30年代から増加傾向にあったが、ここ数年は停滞している。

また、板野郡の総人口に占める割合は昭和30年代から継続して増加している。(表2)

表 2 市 郡 別 人 口

(単位：人，%)

区 分	平成11年	12年	13年	14年	15年	
	人 口	人 口	人 口	人 口	人 口	総人口に占める割合
県 計	832,418	830,575	824,264	822,888	820,935	100.0
市 計	436,872	436,425	432,746	431,938	431,421	52.6
徳島市	270,436	270,357	268,326	267,904	267,848	32.6
鳴門市	65,219	65,135	64,544	64,559	64,525	7.9
小松島市	43,402	43,333	43,118	42,981	42,785	5.2
阿南市	57,815	57,600	56,758	56,494	56,263	6.9
郡 計	395,546	394,150	391,518	390,950	389,514	47.4
勝浦郡	9,014	8,877	8,836	8,748	8,633	1.1
名東郡	3,170	3,127	2,998	2,968	2,919	0.4
名西郡	33,941	33,832	33,790	33,732	33,627	4.1
那賀郡	34,295	34,249	34,145	34,082	34,069	4.2
海部郡	27,617	27,317	27,171	27,013	26,679	3.2
板野郡	108,121	108,878	109,220	110,281	110,831	13.5
阿波郡	25,594	25,548	25,498	25,288	25,085	3.1
麻植郡	47,753	47,538	46,758	46,661	46,443	5.7
美馬郡	51,195	50,629	49,720	49,258	48,863	6.0
三好郡	54,846	54,155	53,382	52,919	52,365	6.4

注) 各年1月1日現在である。

(3)年齢3区分別人口

平成15年1月1日現在の年齢3区分別人口をみると、0～14歳の年少人口は112,361人、15～64歳の生産年齢人口は517,685人、65歳以上の老年人口は190,361人で、県人口に占める割合は、それぞれ13.7%、63.1%、23.2%となっている。(表3)

また、昨年と比べると年少人口は0.2ポイント(1,917人)、生産年齢人口は0.4ポイント(4,730人)とそれぞれ減少しており、逆に老年人口は0.6ポイント(4,693人)増加している。これは、高齢化が進行していることを示しており、平均年齢も44.4歳、昨年より0.3歳高くなっている。

表3 市郡別年齢3区分別人口及び割合

(単位：人，%)

区 分	人 口			割 合		
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
県 計	112,361	517,685	190,361	13.7	63.1	23.2
市 計	59,925	282,250	89,007	13.9	65.4	20.6
徳島市	37,425	178,666	51,578	14.0	66.7	19.3
鳴門市	8,698	41,093	14,702	13.5	63.7	22.8
小松島市	5,880	27,568	9,309	13.7	64.4	21.8
阿南市	7,922	34,923	13,418	14.1	62.1	23.8
郡 計	52,436	235,435	101,354	13.5	60.4	26.0
勝浦郡	931	4,802	2,900	10.8	55.6	33.6
名東郡	300	1,641	978	10.3	56.2	33.5
名西郡	4,264	20,372	8,991	12.7	60.6	26.7
那賀郡	4,811	20,371	8,877	14.1	59.8	26.1
海部郡	3,203	14,588	8,888	12.0	54.7	33.3
板野郡	16,887	73,834	20,057	15.2	66.6	18.1
阿波郡	3,264	15,187	6,629	13.0	60.5	26.4
麻植郡	6,018	27,939	12,396	13.0	60.2	26.7
美馬郡	5,920	27,765	15,050	12.1	56.8	30.8
三好郡	6,838	28,936	16,588	13.1	55.3	31.7

注) 1. 平成14年1月1日現在である。

2. 年齢は平成14年1月1日現在で計算している。

2 人口動態

(1) 人口動態状況

人口動態は、出生・死亡の自然動態と、転入・転出による社会動態に区分することができる。

自然動態をみると、平成14年は、出生児数6,882人、死亡者数7,843人で、差引961人の減少となり、平成6年から9年続いたの自然減となっている。

出生率・死亡率の推移をみると、死亡率は年により変動があるものの、昭和62年以来わずかながら上昇傾向であるのに対し、出生率は長期的に低下傾向にある。

(表4・図1)

社会動態をみると、4年続いたの転出超となっている。

表4 人口動態の推移

(単位：人)

区分	自然動態			社会動態			増減合計
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
昭和62年	8,623	6,523	2,100	33,442	35,209	△1,767	333
63	8,672	6,891	1,781	33,163	35,160	△1,997	△ 216
平成元年	8,080	6,902	1,178	33,238	35,616	△2,378	△1,200
2	8,002	7,282	720	33,982	36,158	△2,176	△1,456
3	7,743	6,973	770	33,245	34,771	△1,526	△ 756
4	7,502	7,250	252	33,336	34,395	△1,059	△ 807
5	7,416	7,225	191	33,760	34,067	△ 307	△ 116
6	7,412	7,514	△ 102	34,471	34,676	△ 205	△ 307
7	7,518	7,641	△ 123	35,101	34,194	907	784
8	7,384	7,601	△ 217	34,966	34,481	485	268
9	7,202	7,765	△ 563	34,878	35,055	△ 177	△ 740
10	7,314	7,695	△ 381	34,530	34,000	530	149
11	7,161	8,064	△ 903	33,155	34,095	△ 940	△1,843
12	7,257	7,950	△ 693	33,025	33,795	△ 770	△1,463
13	7,034	8,001	△ 967	33,043	33,452	△ 409	△1,376
14	6,882	7,843	△ 961	31,768	32,760	△ 992	△1,953

注) 各年1月～12月の合計である。

図1 出生率・死亡率の推移

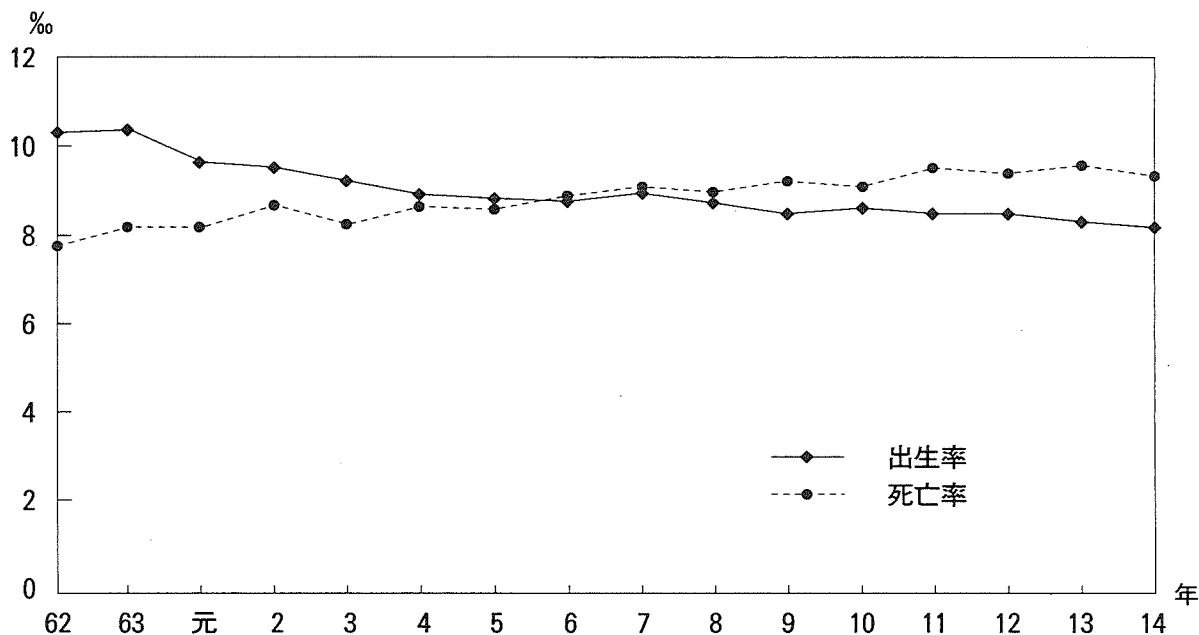
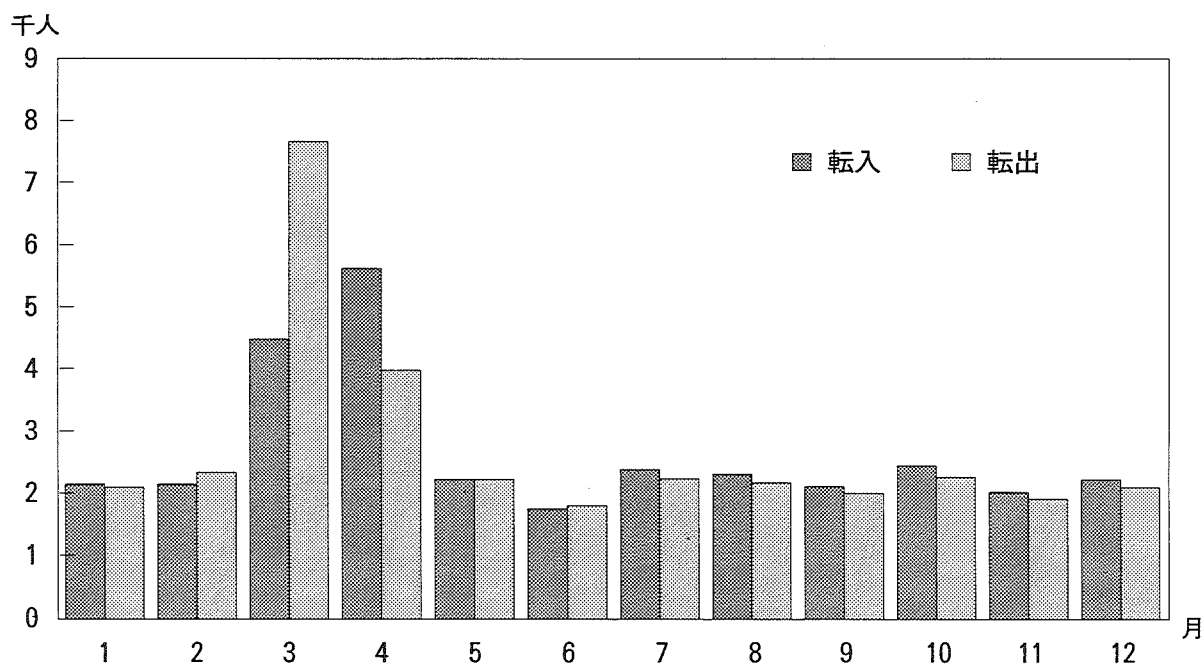


図2 月別転入・転出状況(平成14年)



(2) 年齢階級別・ブロック別移動状況

転入・転出の状況を年齢階級別にみると、転入者数、転出者数ともに25～29歳で最も多くなっている。また、転入者数と転出者数の差が最も大きい年齢階級は、15～19歳で442人の転出超過になっている。(図3)

県外転出状況をブロック別でみると、近畿ブロックが最も多く全体の26.6%を占めており、次いで四国(徳島を除く)ブロック23.4%、関東ブロック16.6%となっている。(図4) なお、年齢階級別転入・転出状況の推移をみたものが(表5)である。

図3 5歳階級別移動状況(平成14年)

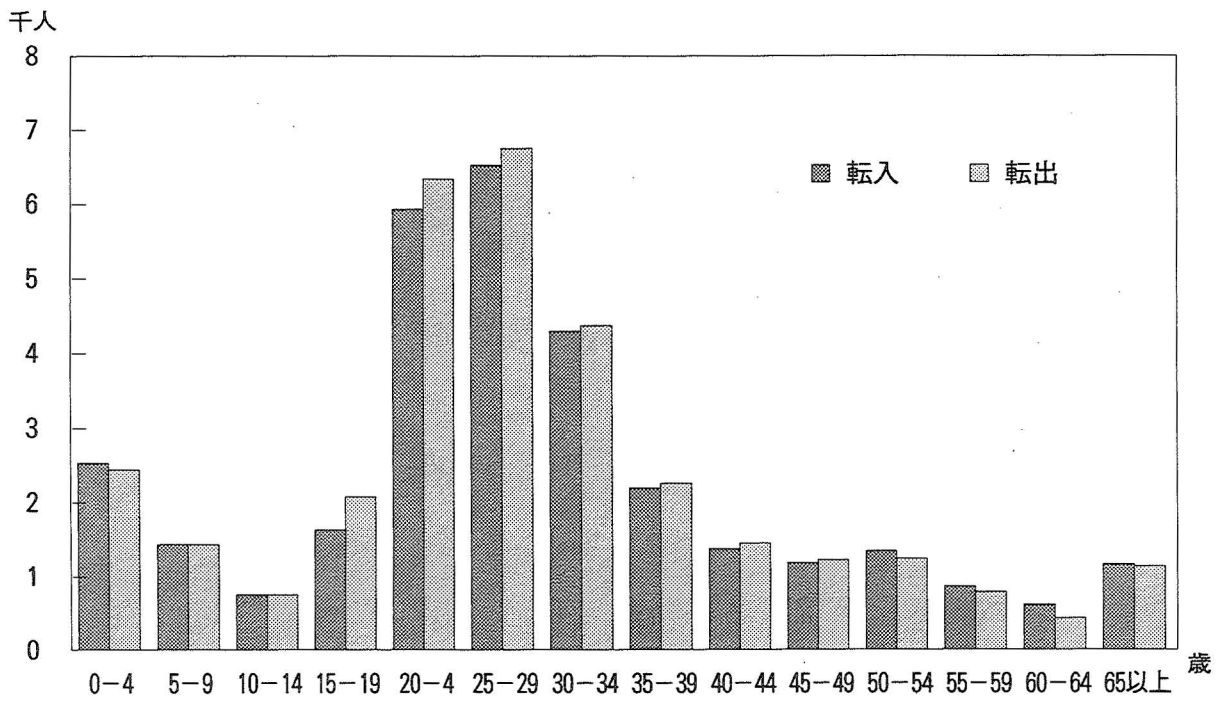
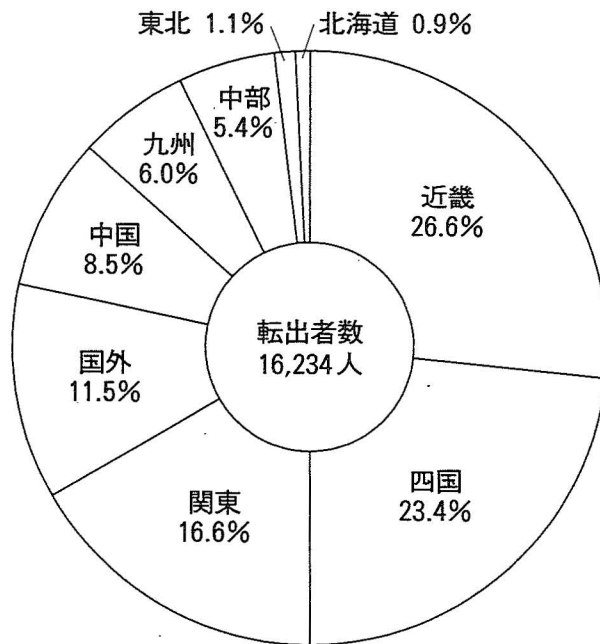


図4 県外ブロック別転出状況(平成14年)



注) 四国には徳島県は含まれない。

表5 年齢階級別転入・転出状況の推移

(単位：人)

区 分	平成5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
総 数	転入	33,760	34,471	35,101	34,966	34,878	34,530	33,155	33,025	33,043	31,768
	転出	34,067	34,676	34,194	34,481	35,055	34,000	34,095	33,795	33,452	32,760
	比較	△ 307	△ 205	907	485	△ 177	530	△ 940	△ 770	△ 409	△ 992
0～14歳	転入	5,612	5,628	5,603	5,550	5,509	5,389	5,117	4,750	4,978	4,674
	転出	5,172	5,335	5,098	5,242	5,278	5,100	5,047	4,861	4,982	4,621
	比較	440	293	505	308	231	289	70	△ 111	△ 4	53
15～19歳	転入	2,666	2,411	2,409	2,226	2,107	2,005	1,813	1,740	1,608	1,598
	転出	4,032	3,649	3,343	3,066	3,156	2,821	2,621	2,316	2,187	2,040
	比較	△1,366	△1,238	△ 934	△ 840	△1,049	△ 816	△ 808	△ 576	△ 579	△ 442
20～24歳	転入	6,661	6,767	6,794	6,856	6,631	6,626	5,961	6,175	6,036	5,925
	転出	6,878	6,771	6,764	6,835	6,761	6,755	6,470	6,388	6,316	6,335
	比較	△ 217	△ 4	30	21	△ 130	△ 129	△ 509	△ 213	△ 280	△ 410
25～34歳	転入	9,495	9,688	10,139	10,363	10,741	10,854	10,708	10,788	11,253	10,804
	転出	8,982	9,242	9,506	9,830	10,213	10,237	10,622	10,773	11,198	11,085
	比較	513	446	633	533	528	617	86	15	55	△ 281
35～44歳	転入	4,231	4,319	4,217	4,251	4,104	4,038	3,965	4,040	3,859	3,601
	転出	3,928	4,142	3,918	3,985	4,045	3,829	3,878	3,970	3,797	3,727
	比較	303	177	299	266	59	209	87	70	62	△ 126
45～54歳	転入	2,485	2,826	2,789	2,841	2,918	2,855	2,843	2,805	2,757	2,543
	転出	2,432	2,784	2,724	2,738	2,830	2,689	2,831	2,798	2,599	2,482
	比較	53	42	65	103	88	166	12	7	158	△ 61
55～64歳	転入	1,446	1,491	1,664	1,582	1,528	1,516	1,507	1,515	1,428	1,465
	転出	1,393	1,406	1,498	1,444	1,397	1,319	1,376	1,435	1,239	1,300
	比較	53	85	166	138	131	197	131	80	189	165
65歳以上	転入	1,164	1,341	1,486	1,297	1,340	1,243	1,241	1,211	1,124	1,157
	転出	1,250	1,347	1,343	1,341	1,375	1,250	1,250	1,252	1,131	1,170
	比較	△ 86	△ 6	143	△ 44	△ 35	△ 7	△ 9	△ 41	△ 7	△ 13

注) 1 各年1月～12月の移動状況である。

2 総数は年齢不詳を含む。